

ネットワークアンケート ⑤0

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. あなたが糖尿病医療に携わられ始めた時と現在を比べて、提供されている医療は良くなったと感じになりますか？

当ニュースレターはWebサイト「糖尿病ネットワーク」と連動しています。その「糖尿病ネットワーク」は今年が開設20周年。この20年の間に、糖尿病の医療は大きく変わってきました。そこで今回は、患者さんやスタッフの皆さんが、糖尿病医療の進歩をどのくらい実感されているかをお尋ねしてみました。

[回答数：医療スタッフ121（医師15、薬剤師17、看護師・准看護師48、管理栄養士・栄養士22、臨床検査技師8、その他21。糖尿病療養指導士42、糖尿病認定看護師8）。患者さん・一般416（1型154、2型250、その他12。経口薬療法53%、インスリン療法62%、GLP-1受容体作動薬療法5%）。重複あり]

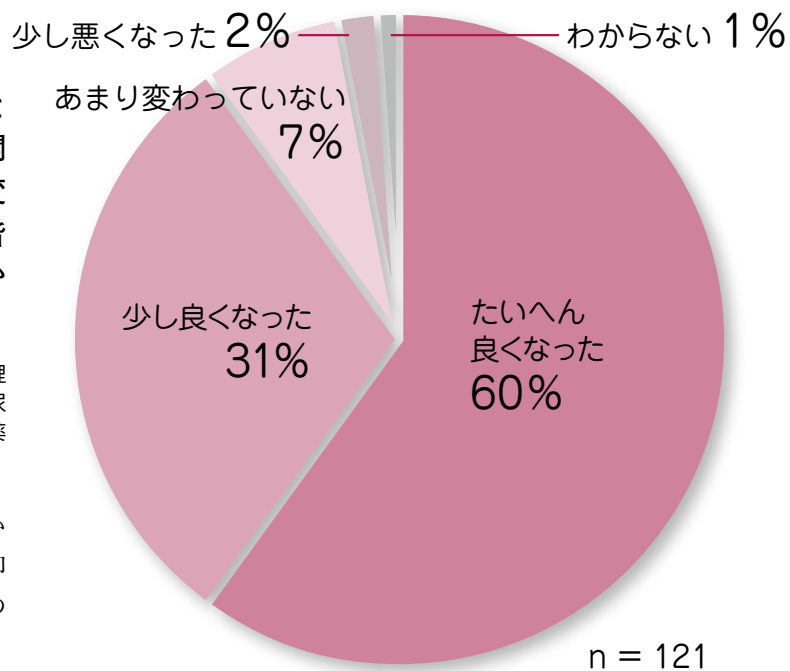
糖尿病医療の進歩について、全体的な印象をお答えいただいたところ、「たいへん良くなった」と「少し良くなった」で9割を占めました。これを糖尿病医療への従事年数別にみると、15年以下の人では「たいへん良くなった」と「少し良くなった」が同程度(24人対27人)であるのに対し、16年以上の人では圧倒的に「たいへん良くなった」を選択されました(48人対10人)。

15年前ごろというと超速効型インスリンが発売され、その後、新規アナログ製剤やさまざまな経口血糖降下薬が登場しました。日本糖尿病療養指導士制度や健康日本21が始動するなど、医療界や社会の糖尿病に対する関心が急に高まり始めた時期でもあります。そのような変化が起きる前の

時代を肌で知っている否かで、進歩の印象がだいぶ異なるのかもしれない。

設問内容をより細かくみると、服薬・注射指導やSMBG指導のしやすさの進歩を感じている割合が高いという結果でした(下図)。その一方で栄養指導や運動指導に関しては、あまり変化していないとの印象が強いようです。

患者層の変化の印象を複数選択で答えていただくと、「高齢の患者さんが増えた」に83%の人がチェック。多くの医療スタッフが患者さんの高齢化を実感されているようです。2位以下は、「合併症のある患者さんが増えた(46%)」や「肥満の患者さんが



増えた(45%)」、「医療費自己負担額への配慮が必要な患者さんが増えた(35%)」でした。なお、患者さんの高齢化は併発しやすい合併症の傾向の変化にも表れていて、「認知症のある患者さんが増えた」との回答が70%に上りました。

次に、今日では欠かせなくなったチーム医療に関しては、やはり「チーム医療の重要性が、たいへん高くなった」がトップで46%を占め、「少し高くなった」36%、「あまり変わっていない」12%と続きました。

